

シンポジウム I

1. 急性期脳梗塞患者における高気圧酸素療法の効果—第2報—

大島光子*¹⁾ 佐渡島省三*¹⁾ 八木博司*¹⁾
藤島正敏*²⁾

(*¹⁾八木厚生会病院内科
*²⁾九州大学医学部第2内科)

脳梗塞患者に対する高気圧酸素療法 (Hyperbaric oxygen therapy, 以下 HBO) は、その治療効果があると報告されているが、十分な対照例との比較がなく、他の保存療法に優るものかは議論の多いところである。前回 (第22回日本高気圧環境医学会) では、急性期脳梗塞患者に対する HBO の効果を、臨床経過と脳組織の虚血状態を反映するとされる髄液中の乳酸濃度の経時変化を指標として、HBO 非施行群と比較検討した。その結果、HBO 施行群32例、非施行群12例で、施行群では HBO10回後 (平均19病日) にすでに上昇していた髄液乳酸値 ($2.01 \pm 0.58 \text{ mmol/l}$) は正常範囲まで有意に減少 (1.70 ± 0.26) した。一方非施行群では経時変化はみられず平均32病日においても異常高値 (1.94 ± 0.06) を示した。重症度別にみると軽症例および重症例では、HBO 施行群、非施行群との間に臨床経過や髄液乳酸値に有意差はなかった。しかし、中等症例では、HBO により早期から臨床症状は改善し、髄液乳酸値も $1.95 \pm 0.23 \text{ mmol/l}$ (1回目) から 1.58 ± 0.21 (2回目) と有意に低下した。中等症の非施行群では、 $2.03 \pm 0 \text{ mmol/l}$ (1回目) 1.96 ± 0.07 (3回目) と3回目測定 (平均32病日) でも高値を示し、中等症の急性期脳梗塞患者における HBO 療法の有効性を示唆した。しかし対照例が12例、中等症例においては3例と少なかったため、今回は HBO 施行例45例、HBO 非施行例28例と症例数を増やし、臨床経過及び、髄液乳酸値に頭部 CT scan を加え、HBO の急性期脳梗塞に対する有効性とその限界とを比較検討する。

シンポジウム I

2. 脳梗塞に対する HBO の有効性と限界

合志清隆*¹⁾*²⁾ 横田 晃*¹⁾ 梶原秀彦*¹⁾
石川忠広*¹⁾ 松岡成明*¹⁾ 大川真治*²⁾
上村秀彦*²⁾ 今田育秀*²⁾

(*¹⁾産業医科大学脳神経外科
*²⁾ 同 高気圧治療部)

【目的】脳梗塞に対しては種々の治療が行われているが、有効な治療法は少ない。今回我々は急性期から慢性期の脳梗塞患者に対して高気圧酸素療法 (HBO) を行い、臨床症状・CT・脳波での検討を行った。

【対象と方法】脳血栓あるいは手術後の脳動脈閉塞による脳梗塞13例を対象とした。男6例、女7例で、年齢は43才から74才まで平均59.7才であった。HBO ($2.5 \text{ ATA} \cdot \text{O}_2 \cdot 60 \text{ min}$) は1回/日施行し、治療回数は6~32回 (平均19回) であり、開始時期は発症後3時間から2ヶ月であった。HBO 前後の症状評価は、意識状態・精神状態・言語機能・運動機能の4項目について HBO 第1回から4回目終了直後と HBO 第10回目あるいは HBO 全行程終了時にそれぞれ行い、治療前の評価と比較した。また CT での経過観察は全例に行い、症例によっては脳波認識法に基づく周波数帯域毎のトレンド表示を含めた脳波を治療期間中記録した。

【結果】13例中5例に HBO 4回までの評価で一過性の改善が認められた。これらは全例脳血栓による脳梗塞例であり、発症5日以内に HBO を開始した症例であった。また HBO 第10回目あるいは HBO 全行程終了時の評価では、前述5例中3例のみに改善がみられた。発症より6日以上経過した亜急性期あるいは慢性期の脳梗塞例には初期反応も最終改善例もみられなかった。手術時の脳動脈閉塞による脳梗塞2例は発症より3日以内に HBO を開始したが症状の改善は認めなかった。臨床症状改善例でも HBO 施行中の脳波上の改善は認めなかった。また全症例において HBO 後に症状悪化例は存在しなかった。

【結論】脳血栓による脳梗塞例では5日以内の急性期あるいは亜急性期に HBO を開始すれば、効果が期待できると考えられた。